様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：２３９０３
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６２８４０１５

研究課題名（和文）日本における仏教と神信仰の融合に関する総合的研究―アジアとの比較の視座から―

研究課題名（英文）Comprehensive Research on Buddhism and God Worship Syncretism in Japan: An Asian Comparative Perspective

研究代表者
吉田　一彦（Yosdahi, Kazuhiko）

名古屋市立大学・人文社会系研究科・教授

研究者番号：４０２３０７２６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本における神仏の融合の諸相を、アジアの国々おける融合の諸相と比較してその共通性と差異を考究し、アジア東部地域の宗教文化の中に日本の融合のあり方を位置づけるものである。これにより以下の点を明らかにした。①日本の鬼神観念は中国の鬼神観念を受容して開始されたが、のちインド的な鬼神観念も融合して新たな「鬼神」観念へと展開していった。②中国の「天」「神」「仏」の語義と日本における概念とを比較した。③契丹（遼）における神仏の融合の諸相を明らかにした。④春日大社、大山祇神社の特質を明確化した。⑤日本の密教における神勧請儀礼を分析し、インド・中国と日本の神観念の共通性と差異を考究した。

研究成果の概要（英文）：This study considers similarities and differences between Buddhism — god worship syncretism in Japan and in other Asian countries, contextualizing the former within East Asian religious culture. It consists of the following: (1) A discussion of Japan’s notion of spirits (kijin 鬼神), which originally came from that of China and subsequently fused with an Indian view of them, developing in new ways. (2) A comparison of the meaning of the Chinese words tian 天 (heaven), shen 神 (god), and fo 佛 (buddha) with concepts in Japan. (3) An elucidation of various aspects of the Khitans’ Buddhism — god worship syncretism. (4) An elucidation of the characteristics of Kasuga Taisha and Ouyayamazumi Jinja. (5) An analysis of ritualistic summoning of gods in Japanese esoteric Buddhism, and a discussion of the similarities and differences between the idea of “god” in India, China, and Japan.

研究分野：人文学

キーワード：東洋日本思想史　神仏習合　仏教史　神信仰　道教　宗教儀礼　文化交流　アジア宗教

１．研究開始当初の背景

（1）仏教と神信仰との融合については、これまで日本の思想史・文化史のなかで、「神仏習合」という用語で論じられ、日本で内在的に成立・展開した日本独自の宗教現象であると説かれてきた。しかし、研究代表者は、1996 年に論文「多度神宮寺と神仏習合」を発表して、日本の神仏習合は中国における仏教と神信仰の融合のあり方やその思想の強い影響を受けたものであることを明らかにした。

この学説は各方面から高い評価を受け、歴史教育では、代表的教科書の一つ『詳説日本史Ｂ』（山川出版社）の 2005 年度版以降、「神仏習合」の項目が「天平文化」の単元に移動し、注で中国の神仏融合思想の影響があることが記されるようになった。2007 年の奈良国立博物館「神仏習合」展では、中国の神仏融合の影響があるという観点から特別展が開催された。このように研究代表者の説は、学界の成果として共有されるに至った。

（2）研究代表者は中国との関係を重視して日本の神仏の融合を再検討する研究プロジェクトを推進し、日本思想史・仏教史研究者 4 人のチームを編成して、科研費を受け（2009～2013 年度）、議論を進捗させてきた。研究代表者は、「本地垂迹説」の成立について再考し、中国仏教の「垂迹」概念が日本に伝わり、国内で「本地」概念と組み合わされていったことを明らかにした。また、神仏の聖地としての山が、日本でも中国の天台山・五臺山などの影響を受けて、比叡山・白山を舞台に成立していく様相を論じた。さらに、日本における宗教融合現象の具体例である聖徳太子信仰についての見解をまとめ（『変貌する聖徳太子』編著、平凡社、2011 年）、神仏関係の問題の原点に位置する仏教伝来の理解についても成果を刊行した（吉田一彦『仏教伝来の研究』、吉川弘文館、2012 年）。

（3）この間、中国・韓国の現地調査・史料収集、ベトナム・台湾についての予備的調査を実施し、伽藍神、水陸画、霊魂観などについて比較検討し、講師を招いて従来の学問領域を超えた討議を行なって考察を深めた。

その中で、今後の研究の方向性として、日本と中国中原地域との比較にとどまることなく、伝統的には「辺疆」とも称された中国周辺地域（国）と日本との比較研究をより積極的に進める視座が重要であるとの理解に至った。日本の神仏の融合も、そうしたアジアの諸地域の中の一形態としてとらえ直す必要があり、アジア東部の諸地域を当面の対象としつつ、アジア全体、そしてユーラシア、さらには世界史を展望する視座のもとに日本をめぐる比較研究を進めて行く必要があると思い至った。

２．研究の目的

（1）宗教と宗教は衝突と融合を繰り返す。それは世界各地で起こることであり、その諸相を解明することは今日の世界的課題の一つである。アジアの諸地域では、諸教・諸神が混在するあり方が広く展開し、その中で融合あるいは衝突・排斥分離などの現象が起こった。日本における宗教の融合をめぐる研究は、近年、研究代表者の論を契機にして新しい水準に入りつつある。

本研究では、日本の仏教と神信仰の融合について、従来の日本独自論による理解を超克し、アジアの諸地域における様相と比較することによって、実証的に交流と融合の諸相を解明する。そして、世界史における宗教融合の諸相を展望することを目標に見すえつつ、アジアの諸地域が、豊かな交流と融合を展開するあり方を明らかにし、あらためてその中に日本の宗教の融合を位置づける地平を拓く。

（2）本研究では、この研究目的に従って、日本史、東部ユーラシア史、思想史、宗教史などの観点から共同研究を進め、

①仏教と神信仰の融合がアジア諸地域に広く展開している実態の明確化
②日本の文化がアジアとの文化交流の中で形成されてきたことの解明
③日本における宗教融合とアジア諸地域における融合の共通性と差異の解明
④ユーラシア史、世界史研究にむけた新たな視角の提示
⑤「神仏習合」用語、概念の相対化

に道筋をつけることを到達の目標としている。

３．研究の方法

（1）本研究では、日本における仏教と神信仰の融合について、アジア諸地域との比較という方法によって研究を進める。その際、中国中原地域ばかりでなく、中国周辺地域（国）と日本との比較研究を重点化し、またそれら諸地域間の交流にも着目して、現地調査、史料読解に基づく実証的研究を進める。

研究体制としては、日本を主たるフィールドとする研究者 4 人と、アジアを主たるフィールドとする研究者 3 人を組織して研究チームを組み、分野横断的に共同研究を進める。また、研究成果を共有するため、名古屋、京都などで研究会を開催して論議を深め、日本独自論と結びついた「神仏習合」概念を相対化して、比較史の観点から日本の宗教融合について考察する。

（2）本研究では、日本における仏教と神信仰の融合について、日本一国史の観点ではなく、アジア諸地域との比較の視座から研究を進める。その際、文献史料読解と現地調査の両面から研究を進めていく。

①関係する典籍、文書、記録、銘文、題記、

絵画、彫刻、建築などの史料の詳細な読解・分析を行ない、国や地域ごとに比較する研究を進める。
②日本国内の関係する史跡や史料の現地調査を実施し、関係史料を収集、分析する。
③アジア東部の関係する史跡や史料の現地調査を実施し、関係史料を収集、分析する。
④研究会を開催し、研究発表および討論を通じて議論を深め、研究チーム全体で認識を共有する。

これらの方法を基軸に共同研究を推進する。

４．研究成果

（1）本研究では、日本に特徴的に見られると一般に観念されている仏教と神信仰の融合（神仏習合）が、日本以外のアジア東部の国や地域に広く展開していることを実証的に明らかにした。その上で、各地域における融合の諸相と日本における融合の諸相を比較して、その共通性と差異を析出した。

中国四川省の調査（大足石刻群、安岳石刻群、牛角寨石刻）では、仏教と道教との融合、仏道儒三教の融合の姿を確認することができ、造像、題記、氏族の様相などからこの地域の融合の地域的特質、時代的変遷をとらえることができた。関連して四川大学の何剣平教授と学術交流し、四川省の宗教史の特色について知見を得た。

台湾の調査（台南市、嘉義市、台北市）では、道教と仏教の濃密な融合の諸相とその民衆的展開、媽祖と観音の同体観などについて実見、調査し、データを収集することができた。関連して南華大学の鄭阿財教授と学術交流し、台湾の宗教史の特色や媽祖信仰の諸相について知見を得た。

ベトナムの調査（ハノイ、ダナン、ホイアン）では、仏教初伝の寺と伝える法雲寺の中尊が法雲神像なる女神像であることをはじめとして、女神信仰と仏教が濃密に融合していること、仏教と民間信仰、道教との融合、儒教と祖先信仰の融合などについて実見、調査し、データを収集することができた。あわせて、ベトナム社会科学研究院宗教研究院と学術交流し、諸宗教の融合について多くの知見を得た。

日本における仏教と神信仰の融合は、明治の神仏分離に至るまで、仏教の優位のもとに展開し、神信仰が劣位にあったことが一つの特色として指摘できる。また、江戸時代以前の日本では儒教が強くなく、仏神儒の三教の融合は十分には進展せず、江戸時代になっても限定的であり、近代になって儒教の要素が後退すると、ふたたび儒教の融合度が低い状態に戻っていったことが指摘できる。

（2）中国では、早く諸子百家の時代から「鬼神」の観念が発達し、儒教、仏教、道教、民間信仰の世界で語られた。日本に、遅くとも七世紀までに鬼神をまつる信仰が伝播していたことが木簡史料から確認できる。六国史、『日本霊異記』には鬼神がしばしば描かれるが、それは中国的な鬼神観念をはみ出すものではなく、それを受容したものであった。日本では、仏教の文脈で鬼神が語られると同時に、道饗祭のように神信仰の文脈でも鬼神に対する祭祀が実施された。さらに、『日本霊異記』によるなら、中国的な「廟」が造立されることもあった。

また、病気の原因を鬼神だとする中国思想が受容されており、天然痘流行などに際して、仏教では般若系経典が読誦され、神信仰では道饗祭が実施され、また儒教的徳治政策が実施され、これらを複合的に実施して疫病からのがれようとした。木簡にも病気平癒を祈願したり、疫病除けを祈願したりしたものが見られ、こうした信仰が社会に広く受容されていたことが知られる。やがて平安時代になると、四角四堺祭などの疫神祭が発達し、陰陽道がこれを担うようになった。

その後、密教の隆盛により、インド的な鬼神観念が日本に受容され、それらがさらなる混合、融合を遂げて新たな「鬼神」観念が形成されていった。

（3）本研究では、中国における「神」「仏」また「天」の語義、観念を詳細に分析し、それと日本における「神」「仏」「天」の語義、観念を比較して、その共通性を確認するとともに、差異があることについても明確化し、日本の「神」観念、「仏」観念にどのような特質が見られるかについて解析した。

これについては、今後さらに研究を深める予定であり、同時に、「神」「仏」だけでなく、「鬼」「鬼神」についても検討範囲を拡大して、語義、観念の比較検討を実施していく。

（4）中国では、南北朝、隋唐時代から仏教と神信仰の融合が見られるが、本研究では、遼代、宋代における仏教と神信仰の融合にも着目し、その様相の解明に取り組んだ。

遼代に関しては、木葉山にて実施された祭山儀が遼滅亡に至るまで国家最重要の儀式であったことを指摘し、のち太宗によって木葉山に白衣観音をまつる廟が建立され、仏教の観音菩薩に対する儀礼と神をまつる祭山儀とが結合、融合していったことを明らかにした。

（5）中国の寺院には、仏菩薩などとともに伽藍のまもり神である伽藍神がまつられてきた。これは日本にも伝播し、禅宗寺院等でしばしば伽藍神がまつられた。本研究では、明代における伽藍神にどのようなものがあったのかについて明確化し、そのうちの有力なものについて江南地方を中心に検討を行なった。

また、もっとも有力な伽藍神である関帝に対する信仰、および関帝とともにまつられる周倉について分析し、関帝信仰の淵源およびその歴史的展開について確認するとともに、周倉に対する信仰の成立について明らかにした。その上で、日中の伽藍神の諸相を比較

検討し、その特質を明らかにした。
（6）韓国に関しては、江陵大関嶺の城隍祭を実地調査、分析した。これは端午祭の前祭として実施されるもので、大関嶺山上祭、大関嶺国師城隍祭、邱山城隍祭、鶴山城隍祭、奉安祭から構成されている。ここの山神、城隍神は「無主孤魂」であり、これを祭る行為は日本の疫神祭にも共通する性格を持つ。山神堂では、金庾信がまつられ、日本の御霊信仰にも似た信仰が見られる。この儀礼では、祭官が呪文を読み上げる儒教的儀礼と楽隊と巫による「クッ」が行なわれ、その後、神木を用いる儀礼が実施される。アジア東部における霊魂観、疫神観などを考察する上で重要な儀礼である。
（7）本研究では、日本の代表的な神社である、春日大社の成立とその歴史的変遷、大山祇神社の成立とその歴史的変遷について明らかにした。さらに、近畿地方・東海地方の旧仏教系寺院において実施されてきた修正会とその関連儀礼について文献史料と実地調査の両面から考察し、仏堂で実施される修正会儀礼の歴史的位置を明らかにした。その上で、神社における「田遊び」儀礼の成立とその歴史的変遷について文献史料と実地調査の両面から考察し、修正会と田遊びの結合の歴史を明らかにした。
（8）日本では、平安時代の十世紀、天慶の乱後の神階叙位のために「神名帳」が作成された。天慶七年（九四四）四月の「筑後国内神名帳」は現存する貴重な事例である。ここには国内の神名が書き上げられているが、そのうちの大多数を占める六位以下の位階の神々は国司によって叙位され、位置づけられた神と理解することができる。
　あわせて、密教の修法における神勧請の儀について分析し、神々をどのように位置付けて儀礼の場に招いたのか、結界がどのような意味を持ったのかなどについて考究し、インド・中国・日本における神勧請の変遷と、その共通性と差異について明らかにした。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 45 件）

01 吉田一彦「中国四川省の石刻をたずねて―2014 年度、2016 年度の調査から―」『人間文化研究所年報』12、査読無、44-51、2017 年
02 脊古真哉「大山祇神社と三嶋社―収斂・統合されていった神―」『同朋大学仏教文化研究所紀要』36、査読有、186-226、2017 年
03 荒見泰史「『大目乾連冥間救母変文』の書き換えと「経典化」」『敦煌写本研究年報』11、査読有、23-38、2017 年
04 荒見泰史「敦煌本『仏説諸経雑縁喩因由記』と唱導」『国立歴史民俗博物館報告』188、査読有、125-146、2017 年
05 荒見泰史「香港の盂蘭勝会の現状と餓鬼供養」『アジア社会文化研究』18、査読有、1-33 頁、2017 年
06 吉田一彦「奈良・平安時代前期の病と仏教―鬼神と般若の思想史―」『唐代史研究』19、査読無、121-145、2016 年
07 吉田一彦「アジア東部における日本の鬼神―『日本霊異記』の鬼神の位置―」『説話文学研究』51、査読有、54-64、2016 年
08 吉田一彦「ベトナムでの学術交流と祠・寺・廟―2015 年度の調査から―」『名古屋市立大学人間文化研究』11、査読無、44-50、2016 年
09 吉田一彦「修二会と『陀羅尼集経』―呪師作法の典拠経典をめぐって―」『藝能史研究』212、査読有、1-18、2016 年
10 上島享「「中世国内神名帳」の成立―中世神祇秩序の形成―」『神道史研究』64-1、査読有、2-34、2016 年
11 脊古真哉「春日大社の成立―都城郊外に分祀された外戚の神―」『同朋大学佛教文化研究所紀要』35、査読有、145‐176、2016 年
12 佐藤文子「韓国江陵大関嶺城隍祭―集落における神霊の機能―」『名古屋市立大学人間文化研究』11、査読無、51-55、2016 年
13 藤原崇人「クビライ政権と資戒会」『東西学術研究所紀要』49、査読有、415-429、2016 年
14 二階堂善弘「温州の廟と祭神について」『関西大学東西学術研究所紀要』49、査読有、61-72、2016 年
15 二階堂善弘「大雄宝殿考」『東アジア文化交渉研究（関西大学東アジア文化研究科）』9、査読無、197-206、2016 年
16 二階堂善弘「日中寺院における伽藍神の探求」、吾妻重二編著『文化交渉学のパースペクティブ』（関西大学出版部）、査読無、401-418、2016 年
17 二階堂善弘「武当山・龍虎山・仏山祖廟の元帥神について」、土屋昌明・ヴァンサン・ゴーサール編『道教の聖地と地方神』（東方書店）、査読無、33-44、2016 年
18 荒見泰史「敦煌本『韓朋賦』より見た「韓朋」故事の展開」『林雅彦教授退職記念論集』、査読無、方丈堂出版、607-634、2016 年
19 荒見泰史「敦煌唱導資料の綜合的研究総序」『敦煌写本研究年報』10、査読有 169-176、2016 年
20 荒見泰史「浄土五会念仏法事と八関斎、講経」『シルクロードと近代日本の邂逅』、勉誠出版、査読有、191-228、2016 年
21 荒見泰史「漢語口訣文化与敦煌的識星詩」『童蒙文化研究』第一巻、人民出版社、64–82、査読有、2016 年
22 荒見泰史「法照門徒的念仏法事与《法照伝》的宣唱、『饒学與華学』、上海辞書出版社、349-362、査読有、2016 年
23 YOSHIDA Kazuhiko, “The Credibility of the Gangōji engi”, Japanese Journal of Religious Studies 42/1, Trans.by Paul L. Swanson, 89-107, 2015.
24 吉田一彦「増尾伸一郎氏の宗教史研究」増尾伸一郎著『日本古代の典籍と宗教文化』（吉

川弘文館)、査読無、306-314、2015 年
25 吉田一彦「台湾の神と仏をたずねて―2013 年度、2014 年度の調査から―」『名古屋市立大学人間文化研究所年報』10、査読無、47-54、2015 年
26 上島享「真言密教寺院における文書と日記―勧修寺大経蔵からみえるもの―」『日記・古記録の世界』(思文閣出版)、査読無、493-514、2015 年
27 上島享「本願手印起請の成立―真っ赤な手印が捺された文書をめぐって―」『鎌倉遺文研究』、査読有、35、1-28、2015 年
28 上島享「宇多上皇の宗教活動と熊野―中世熊野信仰の前史の考察―」和歌山県立博物館研究紀要』21、査読無、33-39、2015 年
29 脊古真哉「吉備津宮考―平安時代の地方有力神社の一例―」『同朋大学佛教文化研究所紀要』34、査読有、1-21、2015 年
30 二階堂善弘「明代江南における伽藍神」『関西大学東西学術研究所紀要』48、査読無、59-68、2015 年
31 二階堂善弘「東南アジアの玄天上帝廟」『東アジア文化交渉研究８、査読無、163-169、2015 年
32 荒見泰史「敦煌本《五台山讃文》与念仏法事、斎会」、国立成功大学中国文学系印行、263-276、2015 年
33 荒見泰史、「唐代仏教儀礼及其通俗化(下)」『アジア社会文化研究』16、査読有、25-45、2015 年
34 荒見泰史「仏教儀礼の構造と文体」『敦煌写本研究年報』9、査読有、19-38、2015 年
35 吉田一彦「アジア東部における神仏の融合と日本」『在家仏教』740、査読無、9-11、2014 年
36 上島享「金峯山信仰史の再検討」『説話文学研究』49、査読有、55-68、2014 年
37 脊古真哉「北陸道の初期神宮寺」『同朋大学佛教文化研究所紀要』33、査読有、37-54、2014 年
38 藤原崇人「栴檀瑞像の遷転と 10～14 世紀東部ユーラシアの王権」原田正俊編『日本古代中世の仏教と東アジア』(関西大学出版部)、33-63、2014 年
39 二階堂善弘「関帝信仰と周倉」(『関西大学東西学術研究紀要』47、査読無、71-85 頁、2014 年
40 二階堂善弘「二眼の二郎神」(『東アジア文化交渉研究』7、査読無、217-228 頁、2014 年)
41 荒見泰史「敦煌本『仏説十王経』与唱導」『中国俗文化研究』査読有、178-192、2014 年
42 荒見泰史「温室経講経与俗講、唱導」『出土文献研究視野与方法』第五輯、国立政治大学中国文学系編印、査読有、217-244、2014 年
43 荒見泰史「敦煌本十斎日資料与斎会、儀礼」『敦煌吐魯番研究』14、査読有、379-402、2014 年
44 荒見泰史「九、十世紀中国における斎会の隆盛と十王信仰」『東アジアの宗教文化――越境と変容』岩田書院、査読無、271-288、2014 年
45 荒見泰史「敦煌の仏教儀礼と講唱文学――P.2091『讃釈文』『踰城日文』を中心として」『東方学研究論集［日英文分冊］』、臨川書店、34-45、2014 年

〔学会発表〕(計 22 件)
01 吉田一彦「鬼神と病――木簡と絵画史料をてがかりに」仏教史学会・アジアにおける仏教と神信仰研究会共催シンポジウム「日本とアジアの神仏の融合の諸相」名古屋市立大学、2017 年 3 月 4 日
02 上島享「神勧請の歴史的変遷――インド・中国・日本」(同上)
03 荒見泰史「東アジアにおける信仰・宗教の同質性と異質性――「神」「仏」理解と神仏融合の差異から見た東アジア宗教」(同上)
04 藤原崇人「木葉山祭祀に見る契丹仏教の位相」(同上)
05 吉田一彦「神仏習合――アジア東部における神と仏の信仰と日本」岡山県立博物館(招待講演)、2016 年 10 月 9 日
06 藤原崇人「捺鉢と法会―道宗朝を中心に―」2016 年度唐代史研究会夏季シンポジウム「東部ユーラシアの政治空間―都市と儀礼―」神奈川県箱根町, 2016 年 8 月 23 日
07 二階堂善弘「元帥神の源流について」東アジア文化交渉学会第 8 回大会 SCIEA the 8th Annual Meeting 2016、関西大学百周年記念会館、2016 年 5 月 8 日
08 藤原崇人「元代祖廟における崇仏の裏面―普度資戒会をてがかりに―」九州史学会大会、九州大学、2015 年 12 月 13 日
09 吉田一彦「アジアの中の日本の神仏習合」ベトナム社会科学院宗教研究院との学術交流会、ベトナム社会科学院宗教研究院、2015 年 9 月 11 日
10 佐藤文子「日本宗教の現況およびその生成過程」ベトナム社会科学院宗教研究院との学術交流会、ベトナム社会科学院宗教研究院、2015 年 9 月 11 日
11 二階堂善弘「『水滸全伝』與華光帝信仰」道教與文学国際学術検討会(国際学会)、香港浸会大学、2014 年 12 月 9 日
12 吉田一彦「修二会の呪師と『陀羅尼集経』」能楽学会例会、東京大学、2015 年 10 月 16 日
13 吉田一彦「奈良平安時代の病と仏教」唐代史研究会例会、早稲田大学、2015 年 8 月 18 日
14 吉田一彦「増尾伸一郎氏の宗教史研究」あたらしい古代史の会例会、早稲田大学、2015 年 7 月 25 日
15 二階堂善弘「日中寺院における伽藍神の探究」ICIS シンポジウム「文化交渉学のパースペクティブ」関西大学、2015 年 7 月 19 日
16 吉田一彦「修二会と『陀羅尼集経』―呪師作法の典拠経典をめぐって―」藝能史研究会

大会、同志社女子大学、2015年6月7日
17 上島享「日本中世神祇秩序の形成―その再考―」神道史学会大会、皇学館大学、2015年6月7日
18 二階堂善弘「禹王と中国の水神信仰」東アジア文化交渉学会第7回大会 SCIEA the 7th Annual Meeting 2015 神奈川県開成町、2015年5月9日
19 吉田一彦「アジア東部における日本の「鬼神」」説話文学会例会、奈良女子大学、2014年12月13日
20 上島享「宇多上皇の宗教活動と熊野」シンポジウム・9、10 世紀の熊野と王権、和歌山県立近代美術館、2014年11月9日
21 佐藤文子「史学史の中の国家仏教論」就実大学学術講演会（招待講演）、就実大学、2014年10月11日
22 吉田一彦「国風文化論の発生」就実大学学術講演会（招待講演）、就実大学、2014年10月11日

〔図書〕（計7件）
01 仏教史学会編『仏教史研究ハンドブック』（共著、吉田一彦、上島享、佐藤文子、関山麻衣子、藤原崇人執筆）法蔵館、全 410 頁、2016年
02 吉田一彦『『日本書紀』の呪縛』（単著）集英社新書、全237頁、2016年
03 原田正俊編『宗教と儀礼の東アジア―交錯する儒教・仏教・道教―〈アジア遊学 206〉』（共著、荒見泰史、二階堂善弘、藤原崇人執筆）勉誠出版、全246頁、2017年
04 白須浄真編『シルクロードの来世観〈アジア遊学 192〉』（共著、荒見泰史執筆）勉誠出版、全190頁、2015年
05 藤原崇人『契丹仏教史の研究』（単著）法蔵館、全238頁、2015年
06 NIKAIDO Yoshihiro, *Asian Folk Religion and Cultural Interaction*, (Translated by Jenine Heaton), V&R Unipress and National Taiwan University Press, 2015.p.262
07 佐藤文子・原田正俊・堀裕編『仏教がつなぐアジア　王権・信仰・美術』（共著、佐藤文子執筆）勉誠出版、全336頁、2014年

〔産業財産権〕
○出願状況（計0件）
なし。
○取得状況（計0件）
なし。

〔その他〕
○市民への研究成果の発信
　研究成果を自治体の市民講座や、博物館、大学等で実施される公開講演等で市民に向けて発信した。研究代表者は、名古屋市、尾張旭市、稲沢市、春日井市などの市民講座、岡山市の博物館等で研究成果を分かりやすく語った。また、研究分担者は、姫路市、和歌山市、京都市、名古屋市、西宮市、福山市などの博物館、大学、短大等の市民講座で研究成果を市民に発信した。

６．研究組織

(1)研究代表者
吉田一彦（YOSHIDA, Kazuhiko）
名古屋市立大学・大学院人間文化研究科
教授
研究者番号：40230726

(2)研究分担者
上島享（UEJIMA, Susumu）
京都大学・大学院文学研究科
教授
研究者番号： 60285244

脊古真哉（SEKO, Shinya）
同朋大学・仏教文化研究所
客員所員
研究者番号：20448707

佐藤文子（SATO, Fumiko）
佛教大学・歴史学部・
非常勤講師
研究者番号：80411122

二階堂善弘（NIKAIDO, Yoshihiro）
関西大学・文学部
教授
研究者番号：70292258

荒見泰史（ARAMI, Hiroshi）
広島大学・総合科学研究科
教授
研究者番号：30383186

藤原崇人（FUJIWARA, Takato）
関西大学・東西学術研究所
非常勤研究員
研究者番号：50351250

(3)連携研究者
なし

(4)研究協力者
関山麻衣子（SEKIYAMA, Maiko）
加西市教育委員会